

ハルガヤの出穂および種子生産時期と低減対策

			5月			6月			7月			8月			9月			備 考
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
ハルガヤ出穂・開花時期			← 出穂(4/27~) →			← 開花(5/7~) →			← 種子生産(6/4~) →									<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果から作成した模式図</li> <li>( )内暦日は調査期間中最も早く確認された暦日を記載</li> <li>種子生産量は6月中下旬で約10万粒/m<sup>2</sup></li> <li>5月末に刈り取ると40日後に種子生産</li> </ul>
低減対策	②更新方法	春夏体系処理	当年	除草剤			耕起整地			除草剤・播種						<ul style="list-style-type: none"> <li>除草剤はグリホサート系除草剤を使用する</li> <li>更新当年種子生産させない時期に前植生処理(前年秋~早春)</li> <li>前植生処理から整地までの間に実生を発生させる</li> <li>前年秋処理で翌春出穂した場合は種子生産前に処理する(開花を確認したら3週間までには整地)</li> <li>播種床造成から播種までが長い場合は物理防除か除草剤処理を追加</li> <li>播種適期遵守と除草剤や播種ムラを生じさせない</li> </ul>		
		秋夏体系処理	前年							刈取			除草剤					
			当年	(耕起整地)			耕起整地			除草剤・播種								
	①埋土種子対策	飼料用とうもろこし作付(輪作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>数年間栽培 除草剤(アトラジン製剤)による茎葉処理</li> </ul>															
		てんさい・秋まき小麦作付(耕畜連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>てんさい用薬剤(有効成分:クレトジム)による茎葉処理</li> <li>秋まき小麦用薬剤(有効成分:インダノファン、ジフルフェニカン)による土壌・茎葉処理</li> </ul>															
③更新草種			<ul style="list-style-type: none"> <li>競合力の強いOG</li> <li>更新時のクマリンに対する感受性の低いマメ科(RC、AL)混播</li> </ul>															
	日常管理	施肥管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体草種を維持する適正施肥</li> </ul>															
		ハルガヤ拡大防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>法面やほ場の端にあるハルガヤを作業機械でほ場内部に引き込まない</li> <li>ハルガヤが侵入している草地での作業により作業機に付着した残渣が他のほ場に拡散しないように作業機を清掃する</li> </ul>															
		<ul style="list-style-type: none"> <li>風による種子飛散もあるため、路傍・ほ場周辺のハルガヤは結実前刈り倒しが望ましい</li> </ul>																

\*低減対策は①②③の順で優先的に取り組む